

世界の 都市総合力 ランキング

Global Power City Index 2009



目次

GPCI-2009 の概要.....	1
GPCI-2009 の特徴.....	6
GPCI-2009 の結果.....	12
資料編.....	33

GPCI-2009 の概要

世界の都市総合力ランキング 2009 年版「Global Power City Index-2009」

はじめに

「Global Power City Index」は、**地球規模で展開される都市間競争下において、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける力こそが「都市の総合力」である**との観点に立ち、世界の主要都市の総合力を評価し、順位付けしたものである。

2009 年版は、昨年のランキングに対する各方面の専門家・有識者からの指摘をふまえ、近年注目される「環境」分野の追加、評価対象都市の追加など内容を大幅に充実させ、より世界の都市の総合力の実態に近い姿を反映したランキングとなっている。あわせて、GPCI を都市戦略の検討ツールとして活用するため、東京の持つ都市としての弱みを克服するためのシナリオに基づくランキングのシミュレーションを行っている。

さらに、世界で都市間競争が激化する状況においても、一方で各都市が連携・補完しあうことが重要であるとの観点に基づき、「Global Circuit」という概念を導入し、都市間の結びつきの一端を調査し視覚化することを試みている。

この結果により、東京や世界の都市が持つ魅力や課題を再認識できると同時に、都市の政策立案や企業戦略形成に役立てられることを期待したい。

「Global Power City Index」(GPCI) の特徴

1. 都市の総合力を分析し、ランキングする調査研究として日本初の取り組みであった昨年版 (GPCI - 2008) をさらに充実・進化させたものである。
2. 世界の各種機関が公表する既存のランキングのほとんどが、特定分野もしくは国別のランキングであるのに対し、都市の力を表す様々な分野を対象として都市の総合力を評価したランキングである。
3. 世界を代表する主要 35 都市を選定し、都市の力を表す主要な 6 分野（「経済」「研究・開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通アクセス」と、さらに現代の都市活動を牽引する 4 つのグローバルアクター（「経営者」「研究者」「アーティスト」「観光客」）ならびに都市の「生活者」という 5 つのアクターの視点に基づき、複眼的に都市の総合力を評価している。
4. 都市戦略の検討ツールとして活用する観点から、ランキング調査から顕在化した東京の持つ都市としての弱みを克服するためのシナリオに基づくシミュレーションを行っている。
5. 対象 35 都市の連携・補完の関係を、「Global Circuit」という概念のもと、「航空旅客流動量」「グローバル企業の本社・支社（金融業／その他企業）」の観点で調査し、視覚化している。
6. 都市研究に関する世界的権威であるピーター・ホール卿をはじめとする学識者によるコミッティーを設置し、各界の有識者等の参画と、国際的な専門家によるピアレビュー（第三者評価）を得たランキングである。

GPCI-2009 で明らかになった主なポイント

1. 分野別総合ランキング (P.12)

分野別総合ランキングのトップ3はニューヨーク、ロンドン、パリの順で、東京は第4位である。これは、昨年と同様の結果となった。

シンガポールが5位にランクされたが、上位4都市との差は大きく、ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京のトップ4都市としての存在感は大きい。

2. 分野別ランキング (P.14)

ニューヨークとロンドンが「居住」と「環境」以外の分野で非常に高い評価を得ている一方で、パリは「居住」と「交通・アクセス」でトップを制しながらその他の分野でも比較的高い位置に付けている。

東京は「経済(2位)」、「環境(4位)」にランクされている。経済と環境が双方とも5位以内にランクされる都市は他になく、東京は世界に比類ない経済と環境の双方を両立する唯一の都市であることが明らかとなった。つまり、GPCI-2009では、「環境」を新たな分野として独立させたことにより、東京の強みが改めて認識される結果となった。

一方で、総合ランキングで上位でないトロント、バンクーバーが「居住」分野にて、ジュネーブが「環境」分野にてトップ5以内にランクされるなど、総合ランキングで上位ではない都市でも、特定の分野では上位にランクされ優位性を発揮する都市の存在が伺える。

アジアには「経済」分野に強みを持つ都市が多い一方で、欧州には「文化・交流」、「居住」、「環境」分野で上位にランクされている都市が多い。

3. アクター別ランキング (P.16)

分野別の総合ランクのトップ4都市は、都市において活躍する4つのグローバルアクター、都市生活者、いずれのアクターからみても評価が高く、魅力的な都市であるといえるが、東京は「経営者」「観光客」からみた評価がやや低い。

分野別の総合ランクで中位・下位である、「上海」、「北京」、「香港」などアジアの諸都市が、アクターによっては高い評価を得ている。また、分野別総合ランキングで中位圏の欧州の諸都市は、特に「アーティスト」と「生活者」からの評価が高い。

4. 35 都市の類型化 (P.18)

分野別スコアにもとづき、類似している都市をクラスター分析した結果、大きく5つのグループに類型化することができ、世界の主要都市の様相を整理することができる。

大別すると、ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の上位4都市は、どの分野でも高い評価を受ける都市群であり、ほかにも「経済」や「研究・開発」分野に強みを発揮する都市群、「居住」や「環境」分野に強みを発揮する都市群などに類型できる。

5. 分野別総合ランキングトップ4都市の比較分析 (P.20)

分野別スコアの偏差値でトップ4都市を比較してみると、ニューヨークは「環境」が、ロンドンは「居住」といった弱い分野があるものの、その弱点をカバーして余りあるほど他の分野での評価が圧倒的に高い。パリ、東京は、6分野すべてで平均より高い評価を得ているが、「文化・交流」および「交通・アクセス」分野で、パリの評価が東京より高いことから、パリに次ぐ4位となっている。

また、東京は「経済」および「研究・開発」分野で非常に大きな強みを出しており、さらにトップ4都市のなかで、「環境」分野での評価が最も高い。ただし、「居住」および「交通アクセス」の分野では、35都市中、平均程度の評価である。

6. 東京とアジア主要都市の比較分析 (P.21)

東京は依然としてアジアのNo.1都市であるが、アジアの他の主要都市と比較して、「経済」および「研究・開発」の分野では極めて優位性があるものの、「文化・交流」、「居住」、「交通アクセス」の分野ではアジアの主要都市に比べて特に優位性があるわけではない。

東京は、「研究者」、「アーティスト」、「生活者」の3つのアクターからの評価が、アジア主要都市のなかで最も高い。しかし、「経営者」からは低く評価されており、シンガポール、香港、上海が東京より高く評価されている。

7. 第2グループにランキングされた都市に関する分析 (P.23)

分野別の総合ランキングで、ロンドン、パリを除いた欧州の上位都市（ベルリン、ウィーン、アムステルダム、チューリッヒ、マドリッド）は、「居住」、「環境」分野で高い評価を得ている傾向がある。

同程度の順位にランクされているアジア都市（香港（10位）、ソウル（12位））と比較してみると、その違いがより明らかであり、香港とソウルの場合、「居住」と「環境」分野で低位に評価されている。

8. 東京の強み・弱みの分析 (P.24)

トップ3都市と比べ東京の強みは、経済分野では世界のトップ企業が集積していること、研究・開発分野では研究者数の多さや研究開発費が豊富であることである。一方、東京の弱みは、都心から国際空港までのアクセスが悪いこと、高い法人税率などであり、これらの点で大きく劣っていることが、トップ3入りできない原因であると言える。

「経営者」に魅力的な都市とするための東京の課題は、規制や税制などのビジネスをとりまく環境の改善である。また「観光客」に魅力的な都市とするための東京の課題は、魅力的な観光資源を充実させること等、観光をとりまく環境の改善である。

9. 東京の弱みを克服するためのシナリオ (P.26)

東京の「弱み」を克服し、東京が世界のNo1都市となるためのシナリオを明らかにする。結果として、シナリオ2（国際交通インフラが改善され、さらに経営者からみて重要な要素の指標が克服されるシナリオ）を実現することで、東京の総合ランキングが1位となることがわかった。

10. Global Circuit に関する分析 (P.28)

都市の総合力を評価する上で重要な点は、単に都市ごとの指標の優劣だけでなく、これら大都市が相互にどのような関係—依存、競合、補完、を持っているかである。そのため、都市間相互の関係を表す以下のネットワークについての分析を行い、都市別の指標を積み上げただけでは分からない「グローバル・サーキット」を顕在化させるための分析をランキングと並行して行っている。

(1) 都市間航空旅客流動量

ロンドンとアジア・北米の主要都市との繋がりが強く（航空旅客流動からみたグローバル拠点）、北米ではN.Y.がハブであり、かつロンドンとの繋がりが強い。アジアでは東京、香港、シンガポールがハブであるが、シンガポール・香港がロンドンと繋がりが強い一方で東京はロサンゼルスとの繋がりが強いことがわかる。

(2) グローバル企業の世界各都市での本社・支社のネットワーク

① 金融業を除くグローバル企業の世界各都市での本社・支社の立地状況はパリがヨーロッパの拠点、ニューヨークがアメリカ大陸の拠点、そして東京とソウルがアジアの拠点であることがわかる。さらに、パリとニューヨークがそれぞれともに、東京、ソウル、マドリッドと強いネットワークを持つことがわかる。

② 金融業では依然として東京、ニューヨーク、ロンドンが強いネットワークを示しており、世界3大金融センターであることを表している。また、パリはヨーロッパ及びアジアの諸都市とのリンクがロンドンを上回って非常に多く、ロンドンの陰に隠された金融センターであることを示している。

1-1. GPCI-2009 の策定体制

本ランキングは、竹中平蔵 森記念財団都市戦略研究所 所長/慶應義塾大学教授 を委員長とし、都市研究に関する世界的権威であるピーター・ホール卿をはじめとする学識者によるコミティーを設置し、各界の識者等の参画と、国際的な専門家によるピアレビュー（第三者評価）を得たランキングである。

本ランキングは、下表に示した4つの主体からなる策定体制により作成している。

委員会は、ピーター・ホール ロンドン大学教授を最高顧問（Principal Advisor）とし、竹中平蔵 慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 所長・教授 を委員長とする計5名により構成し、ランキング作成過程の主要なポイントでのスーパーバイズを行っている。

ランキングの実作業は、ワーキンググループによる検討作業を重ねることで進められ、各段階において、各界の有識者からグローバルアクターの視点にもとづく助言を得ながらランキング作成を進めている。

なお、こうしたランキングの作成過程及び結果の妥当性については、2名の第三者評価者（ピアレビューアー）に評価を依頼し、内容の確認及び改善点の指摘を受けている。

また、本ランキング作成に際し、昨年に引き続きワーキンググループメンバーとして株式会社三菱総合研究所が参画し、各都市のデータ収集・分析などを行っている。

GPCI-2009 はこうした体制のもと、最終的に取りまとめられたものである。

表 1-1 策定体制

主体	メンバー	役割
最高顧問: ピーター・ホール教授	委員長: 竹中平蔵 森記念財団都市戦略研究所 所長 慶應義塾大学教授	ランキング作成 のスーパーバイズ
委員会	委員: リチャード・ベンダー カリフォルニア大学名誉教授 サスキア・サッセン コロンビア大学教授 市川宏雄 森記念財団理事 明治大学教授	
第三者評価者 (ピアレビューアー)	アレン・J・スコット UCLA 教授 ピーター・ネイキャンプ フリー大学教授	成果についての 評価
各界の有識者 パートナー	各界の有識者	グローバルアク ターの視点で助 言
ワーキング グループ	主査:市川宏雄 森記念財団理事 明治大学教授 構成員: 財団法人森記念財団 都市戦略研究所 株式会社三菱総合研究所	ランキング作成 作業

1-2. GPCI-2009 の対象都市

図 1-1 対象 35 都市



* GPCI-2009 における追加都市を示す

1-3. ランキングの作成方法

GPCI-2009 では、都市の力を表す主要な6分野（「経済」、「研究・開発」、「文化・交流」、「居住」、「環境」、「交通・アクセス」）における指標の積み上げによる分野別ランキング、及び分野別ランキングスコアを合算した分野別総合ランキング、そして現代の都市活動を牽引する4つのグローバルアクター（「経営者」「研究者」「アーティスト」「観光客」）ならびに都市の「生活者」という5つのアクターのニーズに基づき都市の力を評価したアクター別ランキングを作成し、複眼的に都市の総合力を評価している。

(1) 分野別ランキング

分野別ランキングは、都市の力を表す主要な6つの分野である「経済」、「研究・開発」、「文化・交流」、「居住」、「環境」、「交通・アクセス」から構成され、6分野合わせて69の指標を用いている。各分野においてそれぞれの分野における主要な要素を意味する「指標グループ」を設定し、該当する指標をそれぞれの指標グループに配分している。

ランキングを決定するスコアの算出方法については、先ず都市毎の個別の指標データを指数化したうえで「指標グループ」毎に平均値を算出し「指標グループスコア」としている。さらに、各分野の「指標グループスコア」の平均値を「分野別スコア」とし、最終的にそれらを合算したスコアに基づき分野別総合ランキングを算出している。

GPCI-2009 では、GCPI-2008 の基本的な構造を継承しつつ、GPCI-2008 に対する専門家や学識経験者の意見を踏まえ、大きく次の5つの点で充実を図っている。

1. 都市の追加（30都市から35都市へ：大阪、福岡、カイロ、サンパウロ、バンクーバー）
2. 分野の追加（「環境」分野を独立させて合計6分野へ）
3. 指標の追加・変更（63指標から69指標へ）
4. 指標グループの概念の導入
5. 有識者アンケートの導入

図 1-2 GPCI-2008 から GPCI2009 への変更点



図 1-3 分野別ランキングの作成フロー



(2)アクター別ランキング

グローバルに活動するアクターから見た魅力的な都市の総合力とは何かを探るとい
う本ランキングの主旨に鑑み、現代の都市活動を牽引する4つのグローバルアクター
である「経営者」、「研究者」、「アーティスト」、「観光客」をピックアップし、さらに、
都市におけるアクターのマジョリティを占める「生活者」の5つの属性についての分
析を行い、ランキングを作成している。

それぞれのアクターにおいて、その職業から都市に求める基本的性能のなかで何を
重視するか、あるいはその優先度はアクターごとに異なる。そこでまず、それぞれの
アクターの都市活動イメージを設定し、有識者のアドバイスを踏まえつつ、各アクタ
ーがその活動において都市に求める重要な要素を、図1-4のようにアクターごとに
設定している。

次に、それぞれのアクターが求める重要な要素に該当する指標を、分野別ランキン
グで用いた指標のマトリックスの中から選択してアクター別にスコアを集計している。

尚、指標は分野別ランキングで設定した69指標の中から、それぞれのアクターに関
わる指標を選択するため、アクター間で重複して選択されている指標がある。

このように GPCI-2009 は、都市の機能的な側面を切り取った視点に基づく「分野別
ランキング」、都市で活躍する主体が都市をどう評価するかという着眼点に基づく「ア
クター別ランキング」という2つの観点により構成されたランキングである。
GPCI-2009 ではこれらの「分野別」と「アクター別」の2つの異なる視点からの分析を
行うことにより、都市の持つ魅力を複眼的に探る試みを行っている。

図 1-4 アクター別ランキングの作成フロー



2-1. 分野別総合ランキング

分野別総合ランキングのトップ3はニューヨーク、ロンドン、パリの順で、東京は第4位である。これは、昨年と同様の結果となった。

シンガポールが5位にランクされたが、上位4都市との差は大きく、ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京のトップ4都市としての存在感は大きい。

分野別総合ランキングの結果、トップ3はニューヨーク、ロンドン、パリの順で、東京が第4位であるが、この結果は昨年の結果と同様である。

しかし、総合スコアでみた東京の位置づけは昨年とは異なり、トップ3の都市グループとの差が縮小されたとともに、5位以下の都市との差が大きいため、東京を含めたトップ4の都市が最上位都市グループとして抜きんできた結果となっている。

【大幅なランキング変動のある都市について】

昨年に比べ、今年分野別の総合ランキングが、4ランク以上のランクアップあるいはランクダウンした都市は、トップ4以外の上位・中位の都市に集中している。

ただし、GPCI-2009の場合、GPCI-2008の基本体系は維持しつつ、都市の追加、分野の追加、指標の追加・変更、指標グループの概念の導入、有識者アンケートの導入などの大きな5つの変更点がランキング変動に影響を与えたことに留意することが必要である。

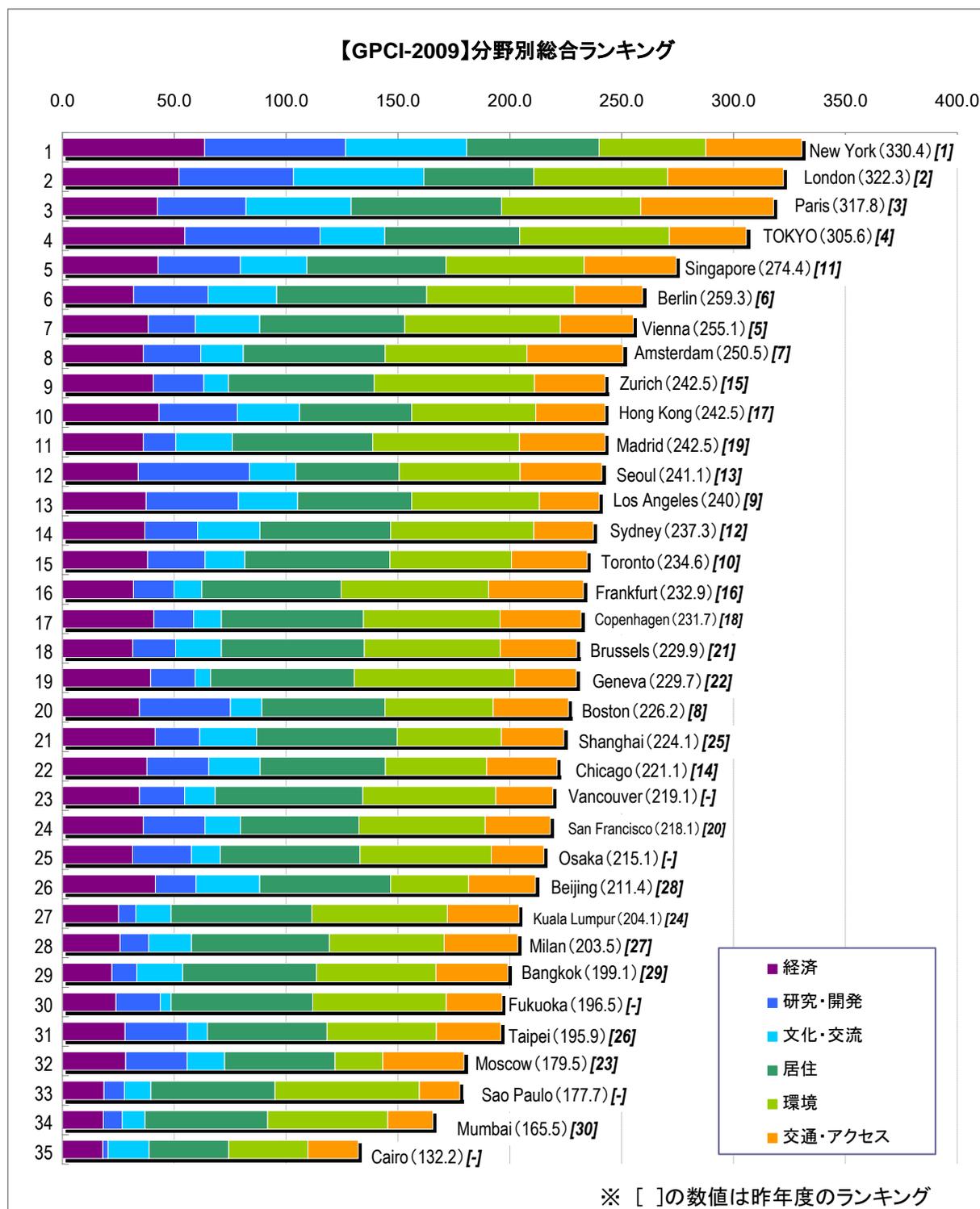
(1) ランクアップ都市（主にアジア主要都市及び欧州の諸都市）

- シンガポールについては、「文化・交流」、「交通・アクセス」分野で評価が昨年より高く、香港と上海については「文化・交流」分野での評価が高い。
- チューリッヒとマドリッドは、GPCI-2009の「環境」分野で高評価を得ているが、「居住・環境」分野から「環境」分野を独立させることが有利に働きランクアップしている。

(2) ランクダウン都市（主に北米の諸都市）

- 「環境」分野を独立させて新たな指標を加えた結果、ニューヨークを含めたすべてのアメリカの都市（ロサンゼルス、ボストン、シカゴ、サンフランシスコ）が「環境」分野で20位以下に評価され、結果として総合ランキングも下がっている。ただし、ニューヨークは他分野でこの弱点を補いランクに変動はない。
- トロントは「居住」分野で5位と評価が高いものの、「環境」分野では23位と評価が低く、アメリカの都市と同様にランクを落としている。

図 2-1 分野別総合ランキング結果



※ 分野別総合ランキングのスコアの最大値は 547 である。

2-2. 分野別ランキング

ニューヨークとロンドンが「居住」と「環境」以外の分野で非常に高い評価を得ている一方で、パリは「居住」と「交通・アクセス」でトップを制しながらその他の分野でも比較的高い位置に付けている。

東京は「経済（2位）」、「環境（4位）」にランクされている。経済と環境が双方とも5位以内にランクされる都市は他になく、東京は世界に比類ない経済と環境の双方を両立する唯一の都市であることが明らかとなった。つまり、GPCI-2009では、「環境」を新たな分野として独立させたことにより、東京の強みが改めて認識される結果となった。

一方で、総合ランキングで上位でないトロント、バンクーバーが「居住」分野にて、ジュネーヴが「環境」分野にてトップ5以内にランクされるなど、総合ランキングで上位ではない都市でも、特定の分野では上位にランクされ優位性を発揮する都市の存在が伺える。

分野別ランキングで見ると、各都市の強みはそれぞれ異なり、特定の分野で優位性を発揮する都市が存在する。

例えば、「居住」分野ではバンクーバー（総合ランク 23位）、トロント（総合ランク 15位）ジュネーヴ（総合ランク 19位）など、総合ランク 10位以下のカナダおよびヨーロッパの都市が上位5位以内にランクされている。

また、東京は、35都市のなかで「経済」と「環境」の双方分野でトップ5にランクされる唯一の都市であり、「経済」分野では2位、「環境」分野では4位にランクしている。しかしながら、「経済」と「研究・開発」「環境」では上位に付けながらも「文化交流」「居住」「交通アクセス」の分野でシンガポールに敗れており、その他の分野でも他都市の追随を受けている。

また、「環境」分野においては、フランクフルト（総合ランク 16位）、サンパウロ（総合ランク 33位）がそれぞれ6位、8位にランクされるなど、総合ランキングで下位にランクしている都市が上位10位以内に位置している。特に、サンパウロの場合、「汚染状況」では下位であるものの、環境への取り組みを評価する「エコロジー」では高く評価され、この分野でのランクを押し上げている。またベルリンは、「文化・交流」「居住」「環境」にて強みを発揮しながら上位のなかでも特徴のある都市となっている。ベルリン以下のヨーロッパの諸都市についても「居住」、「環境」分野で概ね高く評価されている。

アジアには「経済」分野に強みを持つ都市が多い一方で、欧州には「文化・交流」、「居住」、「環境」分野で上位にランクされている都市が多い。

地域別に見ると、アジアの諸都市は「経済」分野で上位にランクされる場合が多い。総合ランクが上位ではない香港（総合ランク 10位）、北京（総合ランク 26位）、上海（総合ランク 21位）が、「経済」分野でそれぞれ4位、7位、8位と上位にランクしている。

一方で、「居住」、「環境」分野で、欧州の諸都市が上位10位以内の都市の7割を占めている。

以上を概観すると、アジアの都市には「経済」に特化した強みを発揮する都市が多く、一方で欧州の都市には「居住」、「環境」分野で強みを発揮する都市が多くみられる。

表 2-1 分野別ランキング結果

ランク	総合スコア	経済		研究・開発		文化・交流		居住		環境		交通・アクセス		
1	New York	330.4	New York	63.6	New York	63.0	London	58.2	Paris	67.2	Geneva	71.8	Paris	59.3
2	London	322.3	TOKYO	54.7	TOKYO	60.3	New York	54.1	Berlin	67.0	Zurich	71.7	London	51.8
3	Paris	317.8	London	52.1	London	51.2	Paris	47.0	Vancouver	65.9	Vienna	69.6	Amsterdam	42.9
4	TOKYO	305.6	Hong Kong	43.2	Seoul	49.7	Berlin	30.8	Zurich	65.1	TOKYO	67.0	New York	42.9
5	Singapore	274.4	Singapore	42.8	Los Angeles	41.3	Singapore	29.7	Toronto	64.9	Berlin	66.1	Frankfurt	42.3
6	Berlin	259.3	Paris	42.5	Boston	40.7	TOKYO	28.9	Vienna	64.9	Frankfurt	66.0	Singapore	41.2
7	Vienna	255.1	Beijing	41.5	Paris	39.5	Vienna	28.7	Geneva	64.2	Madrid	65.7	Madrid	38.2
8	Amsterdam	250.5	Shanghai	41.4	Singapore	36.7	Beijing	28.5	Brussels	63.9	Sao Paulo	64.5	Seoul	36.6
9	Zurich	242.5	Copenhagen	40.9	Hong Kong	34.9	Hong Kong	27.9	Copenhagen	63.4	Sydney	64.1	Moscow	36.3
10	Hong Kong	242.5	Zurich	40.7	Berlin	33.2	Sydney	27.9	Amsterdam	63.3	Amsterdam	63.4	Copenhagen	36.1
11	Madrid	242.5	Geneva	39.4	Taipei	27.9	Los Angeles	26.4	Fukuoka	63.3	Paris	62.3	TOKYO	34.3
12	Seoul	241.1	Vienna	38.3	Chicago	27.6	Shanghai	25.4	Kuala Lumpur	62.9	Singapore	61.8	Brussels	34.2
13	Los Angeles	240.0	Toronto	38.1	San Francisco	27.5	Madrid	25.3	Shanghai	62.9	Copenhagen	61.1	Toronto	33.9
14	Sydney	237.3	Chicago	37.8	Moscow	27.5	Chicago	23.1	Madrid	62.6	Brussels	60.8	Boston	33.7
15	Toronto	234.6	Los Angeles	37.4	Osaka	26.4	Seoul	20.7	Osaka	62.4	Kuala Lumpur	60.5	Milan	32.9
16	Frankfurt	232.9	Sydney	36.9	Amsterdam	25.7	Bangkok	20.5	Frankfurt	62.2	London	59.8	Vienna	32.6
17	Copenhagen	231.7	San Francisco	36.2	Toronto	25.7	Brussels	20.4	Singapore	62.2	Fukuoka	59.7	Bangkok	32.1
18	Brussels	229.9	Amsterdam	36.1	Sydney	23.6	Milan	19.1	Milan	61.6	Vancouver	59.4	Kuala Lumpur	32.1
19	Geneva	229.7	Madrid	36.1	Zurich	22.5	Amsterdam	19.1	TOKYO	60.4	Osaka	58.7	Chicago	31.5
20	Boston	226.2	Boston	34.5	Vienna	21.1	Cairo	18.4	Bangkok	59.8	Los Angeles	57.1	Zurich	31.5
21	Shanghai	224.1	Vancouver	34.5	Vancouver	20.2	Toronto	17.8	New York	59.1	San Francisco	56.5	Hong Kong	30.9
22	Chicago	221.1	Seoul	33.9	Shanghai	19.9	Moscow	16.7	Beijing	58.5	Hong Kong	55.5	Berlin	30.4
23	Vancouver	219.1	Berlin	31.9	Geneva	19.9	San Francisco	15.9	Sydney	58.3	Toronto	54.3	Beijing	29.8
24	San Francisco	218.1	Frankfurt	31.7	Fukuoka	19.8	Kuala Lumpur	15.7	Chicago	56.0	Seoul	54.1	San Francisco	29.1
25	Osaka	215.1	Brussels	31.4	Brussels	19.2	Boston	14.0	Sao Paulo	55.5	Mumbai	53.6	Taipei	28.8
26	Beijing	211.4	Osaka	31.3	Frankfurt	18.2	Vancouver	13.7	Boston	55.0	Bangkok	53.3	Shanghai	27.9
27	Kuala Lumpur	204.1	Moscow	28.2	Beijing	18.2	Osaka	12.9	Mumbai	54.8	Milan	51.3	Geneva	27.5
28	Milan	203.5	Taipei	28.0	Copenhagen	17.8	Copenhagen	12.4	Taipei	53.5	Taipei	48.8	Los Angeles	26.8
29	Bangkok	199.1	Milan	25.8	Madrid	14.6	Frankfurt	12.3	San Francisco	52.8	Boston	48.4	Sydney	26.6
30	Fukuoka	196.5	Kuala Lumpur	25.1	Milan	12.8	Sao Paulo	11.8	Los Angeles	51.0	New York	47.7	Vancouver	25.5
31	Taipei	195.9	Fukuoka	23.9	Bangkok	11.1	Zurich	11.0	Hong Kong	50.1	Shanghai	46.5	Fukuoka	24.9
32	Moscow	179.5	Bangkok	22.2	Sao Paulo	9.2	Mumbai	10.2	Moscow	49.4	Chicago	45.2	Osaka	23.5
33	Sao Paulo	177.7	Sao Paulo	18.5	Mumbai	8.4	Taipei	9.0	London	49.1	Cairo	35.4	Cairo	22.5
34	Mumbai	165.5	Mumbai	18.3	Kuala Lumpur	7.8	Geneva	7.0	Seoul	46.2	Beijing	35.0	Mumbai	20.1
35	Cairo	132.2	Cairo	18.0	Cairo	2.3	Fukuoka	4.7	Cairo	35.5	Moscow	21.3	Sao Paulo	18.1

: 分野別総合ランキングトップ5都市

2-3. アクター別ランキング

分野別の総合ランクのトップ4都市は、都市において活躍する4つのグローバルアクター、都市生活者、いずれのアクターからみても評価が高く、魅力的な都市であるといえるが、東京は「経営者」「観光客」からみた評価がやや低い。

分野別の総合ランキングでトップ4の都市（ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京）は、いずれのアクターからみても概ね評価が高い。ただし、パリと東京は、「経営者」からの評価が他のアクターからの評価に比べやや低い。また東京は「観光客」からの評価もトップ4都市の中では7位とやや低い。

とくに、分野別総合ランキングで1位であるニューヨークは、アクター別のランキングでも、「経営者」が2位である以外は「研究者」、「アーティスト」、「観光客」、「生活者」のアクターからトップの評価を得ており、いずれのアクターからも魅力的な都市として評価されている。

分野別の総合ランクで中位・下位である、「上海」、「北京」、「香港」などアジアの諸都市が、アクターによっては高い評価を得ている。また、分野別総合ランキングで中位圏の欧州の諸都市は、特に「アーティスト」と「生活者」からの評価が高い。

分野別の総合ランキングで中位、下位の都市である香港（総合ランク 10 位）、上海（総合ランク 21 位）、北京（総合ランク 26 位）が、「経営者」と「観光客」から高い評価を得ており、経営者からのランキングでは、それぞれ 4 位、5 位、8 位に、観光客からはそれぞれ 10 位、5 位、4 位とランクされている。

地域別に見ると、総合ランキングで 5 位～15 位にランクされているヨーロッパの都市は、「アーティスト」と「生活者」からの評価が高く、総合ランク 6 位であるベルリンは「アーティスト」、「生活者」の両方からのランキングで 3 位に位置している。

表 2-2 アクター別ランキング結果

ランク	経営者		研究者		アーティスト		観光客		生活者	
1	London	55.2	New York	62.6	New York	60.3	New York	59.4	New York	64.5
2	New York	55.2	London	57.7	Paris	58.9	London	57.7	Paris	61.4
3	Singapore	53.8	TOKYO	56.8	Berlin	48.9	Paris	54.8	Berlin	60.9
4	Hong Kong	48.6	Paris	51.4	London	48.8	Beijing	49.0	TOKYO	60.7
5	Shanghai	48.3	Seoul	44.4	TOKYO	46.9	Shanghai	46.9	London	59.0
6	Paris	47.5	Los Angeles	43.4	Chicago	39.5	Vienna	46.1	Amsterdam	57.9
7	TOKYO	46.5	Boston	42.7	Vienna	39.5	TOKYO	46.0	Zurich	57.6
8	Beijing	46.1	Singapore	42.6	Los Angeles	38.9	Berlin	45.5	Vienna	57.0
9	Zurich	44.6	Berlin	39.6	Amsterdam	37.6	Singapore	43.6	Copenhagen	56.5
10	Geneva	44.5	Chicago	37.0	Madrid	35.5	Hong Kong	42.3	Vancouver	56.0
11	Vienna	44.0	Hong Kong	36.4	Toronto	35.0	Madrid	41.3	Toronto	55.8
12	Amsterdam	43.9	San Francisco	36.2	Brussels	33.5	Kuala Lumpur	40.5	Geneva	55.0
13	Copenhagen	43.7	Sydney	35.8	Milan	33.4	Bangkok	40.3	Hong Kong	54.1
14	Toronto	43.2	Amsterdam	34.9	Shanghai	32.9	Brussels	40.0	Osaka	54.0
15	Madrid	41.8	Vienna	33.9	San Francisco	32.9	Amsterdam	39.8	Sydney	54.0
16	Vancouver	41.8	Zurich	32.4	Kuala Lumpur	32.4	Seoul	38.8	Fukuoka	53.1
17	Chicago	40.4	Copenhagen	32.2	Copenhagen	31.9	Toronto	38.7	Singapore	52.8
18	Seoul	40.3	Geneva	31.6	Singapore	31.9	Sydney	37.4	Chicago	52.6
19	Sydney	39.9	Moscow	30.4	Bangkok	31.5	Chicago	37.2	Brussels	52.2
20	Boston	39.8	Toronto	30.0	Frankfurt	31.2	Milan	36.8	Boston	52.1
21	Berlin	39.5	Osaka	29.7	Vancouver	31.2	Frankfurt	36.4	Frankfurt	51.7
22	Los Angeles	39.4	Brussels	28.7	Zurich	31.0	Cairo	35.1	Los Angeles	50.8
23	Brussels	39.2	Vancouver	27.2	Boston	30.9	Copenhagen	35.0	Seoul	50.6
24	Frankfurt	38.5	Shanghai	27.1	Moscow	30.5	Osaka	34.8	Shanghai	50.6
25	Kuala Lumpur	36.9	Taipei	26.3	Sydney	29.6	Vancouver	34.5	Madrid	50.0
26	San Francisco	36.3	Fukuoka	26.3	Beijing	29.3	Boston	34.4	San Francisco	49.5
27	Taipei	35.7	Beijing	26.1	Osaka	29.1	Zurich	34.2	Beijing	48.4
28	Osaka	35.3	Frankfurt	25.5	Geneva	28.3	Los Angeles	34.0	Milan	45.4
29	Bangkok	32.7	Madrid	25.4	Taipei	28.1	Taipei	33.8	Bangkok	45.1
30	Fukuoka	32.1	Bangkok	23.8	Fukuoka	26.7	San Francisco	32.2	Taipei	43.6
31	Milan	31.4	Milan	22.6	Seoul	25.8	Geneva	32.2	Kuala Lumpur	39.7
32	Moscow	30.9	Kuala Lumpur	21.3	Sao Paulo	25.5	Moscow	30.4	Mumbai	39.2
33	Mumbai	27.0	Sao Paulo	19.0	Hong Kong	24.4	Mumbai	28.9	Sao Paulo	37.4
34	Cairo	26.7	Mumbai	18.9	Mumbai	23.1	Fukuoka	28.5	Moscow	34.1
35	Sao Paulo	22.5	Cairo	11.9	Cairo	18.9	Sao Paulo	24.1	Cairo	27.2

：分野別総合ランキングトップ5都市

2-4. 35 都市の類型化

分野別スコアにもとづき、類似している都市をクラスター分析した結果、大きく5つのグループに類型化することができ、世界の主要都市の様相を整理することができる。

大別すると、ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京の上位4都市は、どの分野でも高い評価を受ける都市群であり、ほかにも「経済」や「研究・開発」分野に強みを発揮する都市群、「居住」や「環境」分野に強みを発揮する都市群などに類型できる。

① A グループ：スーパー都市、オールラウンド都市

- ・トップ4都市で構成されている第1グループは、上位2都市（ニューヨーク、ロンドン）と、3位と4位都市（パリと東京）にまとめられる。
- ・ニューヨークとロンドンは、「経済」、「研究・開発」、「文化・交流」、「交通アクセス」の4つの分野で、他都市が及ばないほどの強さを備えているが、それと同時に、それぞれ「環境」、「居住」分野という弱点をもっているスーパー都市と評価される。
- ・また、東京とパリは、全方面に強みを発揮するオールラウンド都市であるものの、逆に、トップ2都市に比肩するほどの強みを発揮する分野がないともいえる。

② B グループ：「居住」・「環境」優位型都市

- ・欧州の都市のなかで上中位（5位～15位）にランクされている都市、およびカナダとアジアの主要国都市で構成されている。
- ・このグループに属している諸都市は、特に「環境」、「居住」分野で他都市より強みをもっている。

③ C グループ：「経済」・「研究・開発」劣位型都市

- ・アジア非漢字圏、新興国の都市とミラノが含まれており、このグループの都市は、すべての分野で平均をやや下回っているが、特に「経済」、「研究・開発」分野に低評価されている。

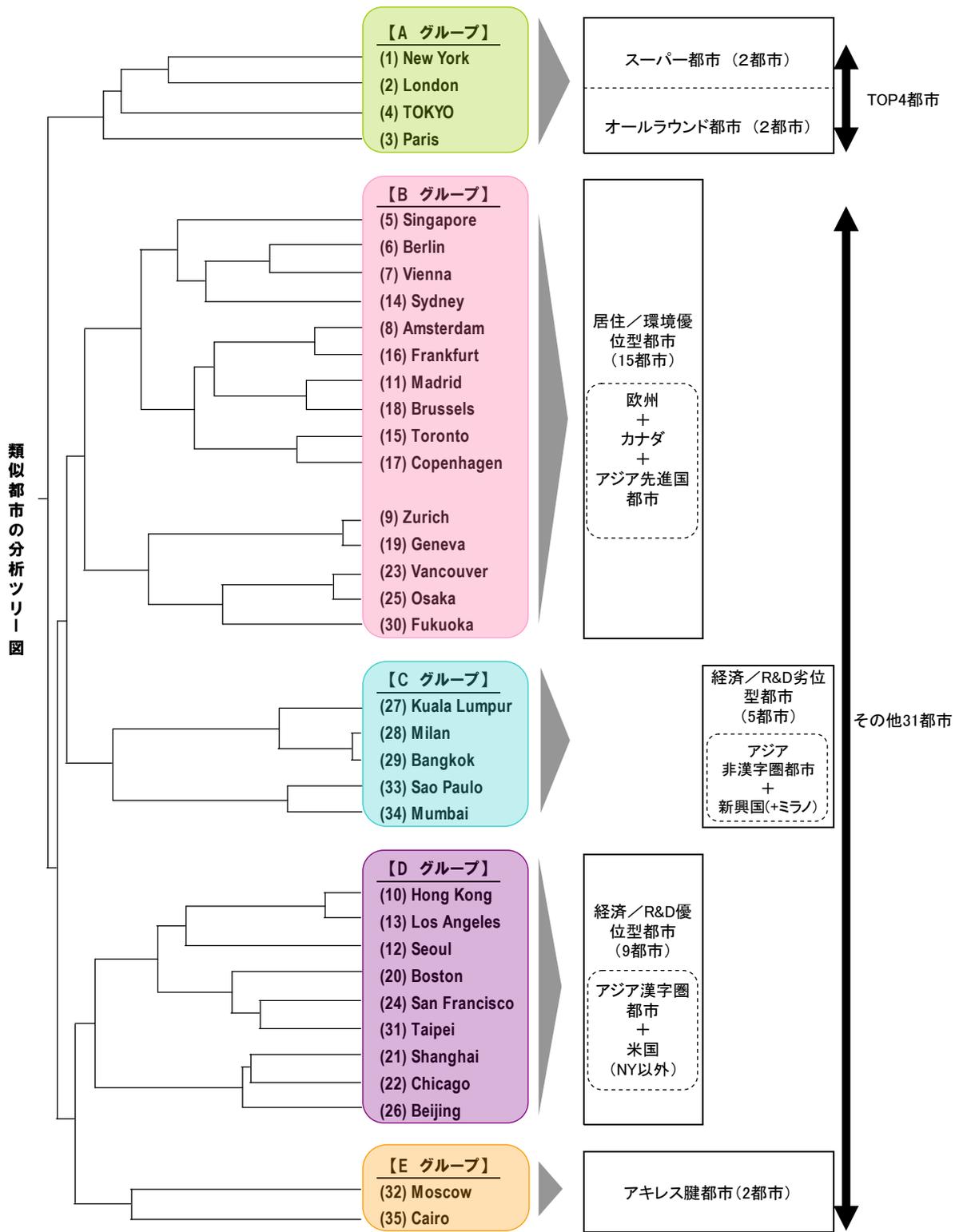
④ D グループ：「経済」・「研究・開発」優位型都市

- ・アジア漢字圏都市およびニューヨーク以外の米国都市で構成されている。
- ・このグループの都市は6分野すべてで平均並みの評価を得ているが、特に「経済」あるいは「研究・開発」分野での評価が高い。

⑤ E グループ：アキレス腱都市

- ・モスクワとカイロがこのグループに属しているが、この2都市は、全分野で他都市より低く評価されているとともに、それぞれ「環境」、「居住」分野で非常に低位に評価されており、大きな弱点をもつ都市のグループである。

図 2-2 35 都市の類似都市の分析ツリー図



※()内は分野別総合ランキングを示す

2-5. 分野別総合ランキングトップ4都市の比較分析

分野別スコアの偏差値でトップ4都市を比較してみると、ニューヨークは「環境」が、ロンドンには「居住」といった弱い分野があるものの、その弱点をカバーして余りあるほど他の分野での評価が圧倒的に高い。パリ、東京は、6分野すべてで平均より高い評価を得ているが、「文化・交流」および「交通・アクセス」分野で、パリの評価が東京より高いことから、パリに次ぐ4位となっている。

また、東京は「経済」および「研究・開発」分野で非常に大きな強みを出しており、さらにトップ4都市のなかで、「環境」分野での評価が最も高い。ただし、「居住」および「交通アクセス」の分野では、35都市中、平均程度の評価である。

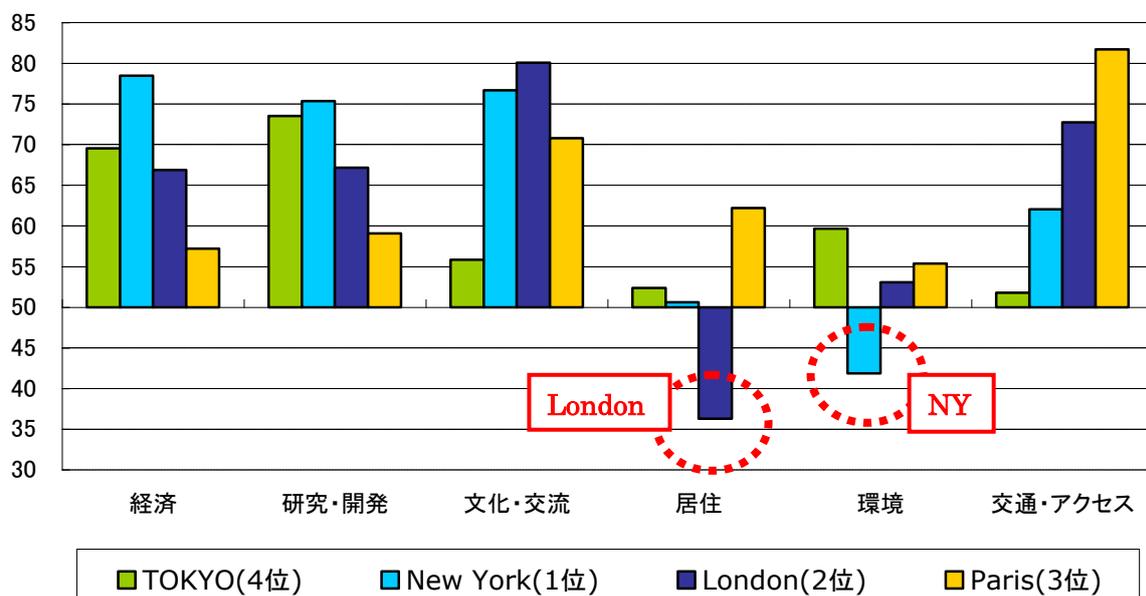
分野別のスコアの偏差値でトップ4都市を比較してみると、ニューヨークとロンドン、パリと東京、この2つのグループに分けられる。

トップ2都市のニューヨークとロndonは、それぞれ「環境」と「居住」分野で低く評価されているものの、この弱点を十分カバーできるほど、他の5分野での評価が圧倒的に高い。

一方、パリ、東京の場合、6つの分野すべてで評価が平均を上回っており、全方面に強みを発揮するオールラウンド都市ともいえる。ただし、パリの場合、東京が相対的に低評価されている「文化・交流」、「居住」、「交通・アクセス」分野での評価が非常に高いことから3位に位置していると考えられる。

東京は「経済」と「研究・開発」分野で高く評価されており、さらに「環境」分野での評価がトップ4都市のなかで最も高く、35都市のなかでは「経済」と「環境」分野の両方で強みを出している唯一の都市である。ただし、「居住」、「交通・アクセス」分野では35都市中、平均程度の評価である。

図2-3 分野別の総合スコアの偏差値分析



2-6. 東京とアジアの主要都市の比較分析

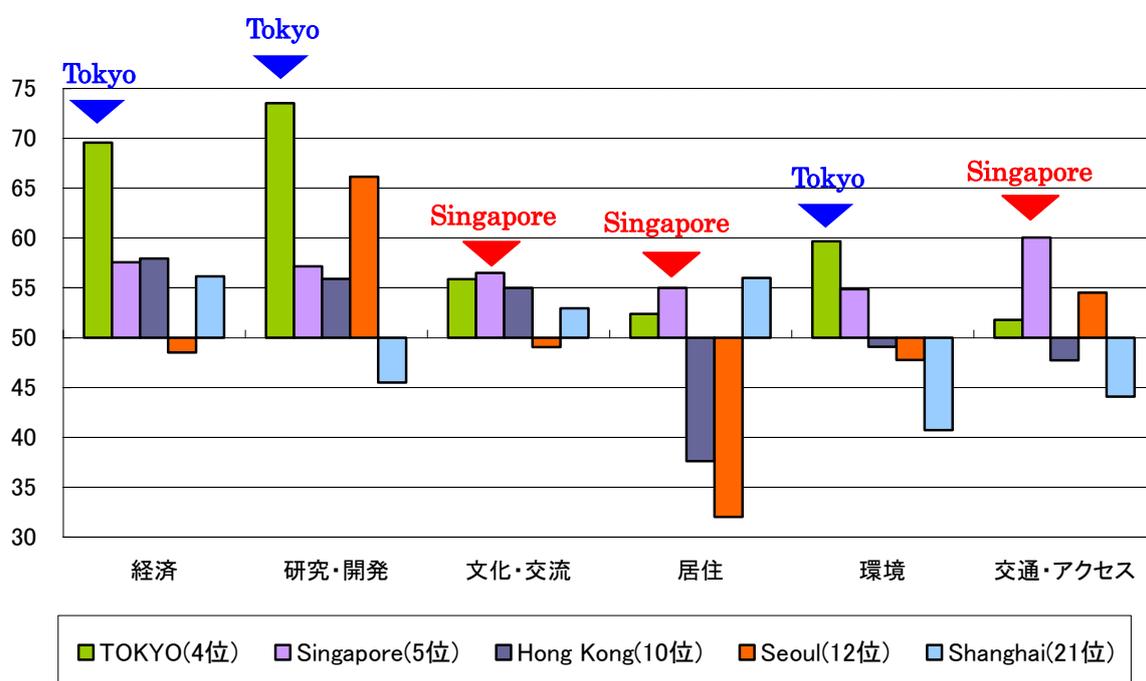
東京は依然としてアジアの No 1 都市であるが、アジアの他の主要都市と比較して、「経済」および「研究・開発」の分野では極めて優位性があるものの、「文化・交流」、「居住」、「交通アクセス」の分野ではアジアの主要都市に比べて特に優位性があるわけではない。

アジアにおけるとくに経済的に主要な都市であるシンガポール、上海、香港、ソウルの4都市と東京について、分野別及びアクター別にスコアの偏差値の比較を行った。

分野別にみると、東京は「経済」、「研究・開発」、「環境」分野で非常に高く評価されているが、総合ランク 5 位であるシンガポールが、「文化・交流」、「居住」、「交通・アクセス」の3つの分野で東京を上回る高評価を得ている。

香港は「経済」と「文化・交流」分野で強みを出しているものの、「居住」、「環境」、「交通・アクセス」分野で低く評価されている。また、ソウルは「研究・開発」分野で非常に高い評価を得ている一方で、「居住」分野での低い評価も際立っている。

図2-4 アジア主要都市の分野別の総合スコアの偏差値による分析



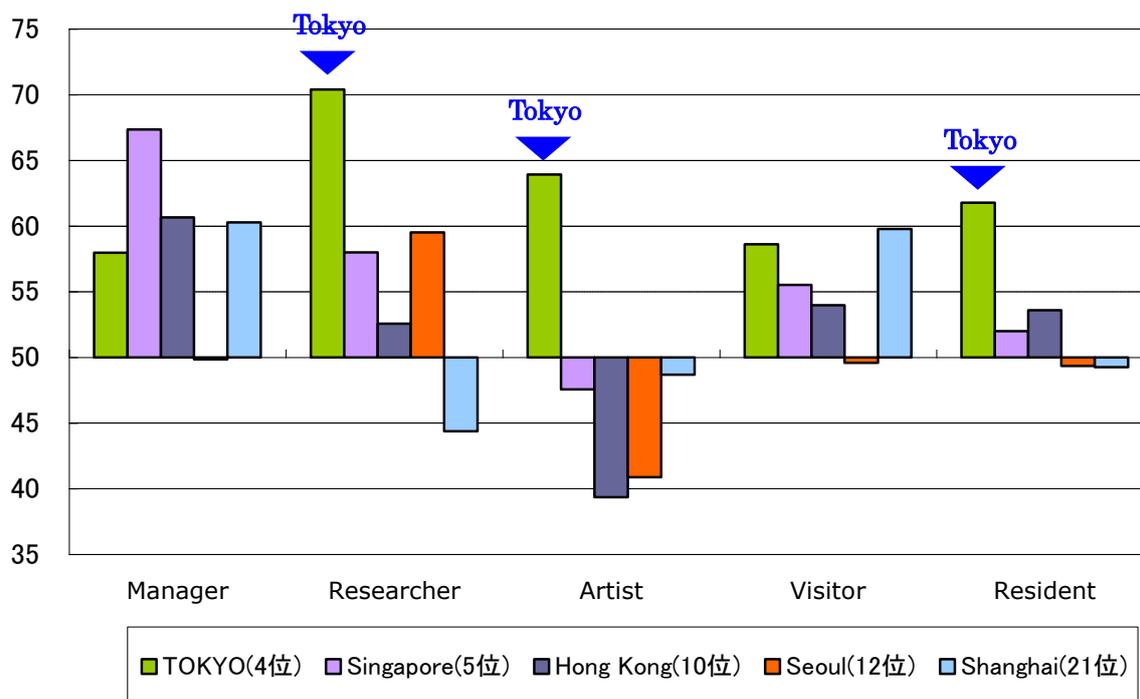
東京は、「研究者」、「アーティスト」、「生活者」の3つのアクターからの評価が、アジア主要都市のなかで最も高い。しかし、「経営者」からは低く評価されており、シンガポール、香港、上海が東京より高く評価されている。

次にアクター別にみると、「研究者」の都市間における評価のばらつきが最も大きく、「観光客」や「生活者」のばらつきは比較的小さくなっている。

東京は、「研究者」、「アーティスト」、「生活者」からの評価が、アジア主要5都市のなかで最も高く、特に「研究者」から非常に高く評価されている。また、「アーティスト」からの評価は、他のアジア4都市の評価が平均を下回るものの、東京だけが高く評価されている。

一方、東京は「経営者」からの評価がアジア主要都市のなかでソウルについて最も低く、シンガポール、香港、上海が東京より高く評価されている。

図2-5 アジア主要都市のアクター別の総合スコアの偏差値の分析



2-7. 第2グループにランキングされた都市に関する分析

分野別の総合ランキングで、ロンドン、パリを除いた欧州の上位都市（ベルリン、ウィーン、アムステルダム、チューリッヒ、マドリッド）は、「居住」、「環境」分野で高い評価を得ている傾向がある。

同程度の順位にランクされているアジア都市（香港（10位）、ソウル（12位））と比較してみると、その違いがより明らかであり、香港とソウルの場合、「居住」と「環境」分野で低位に評価されている。

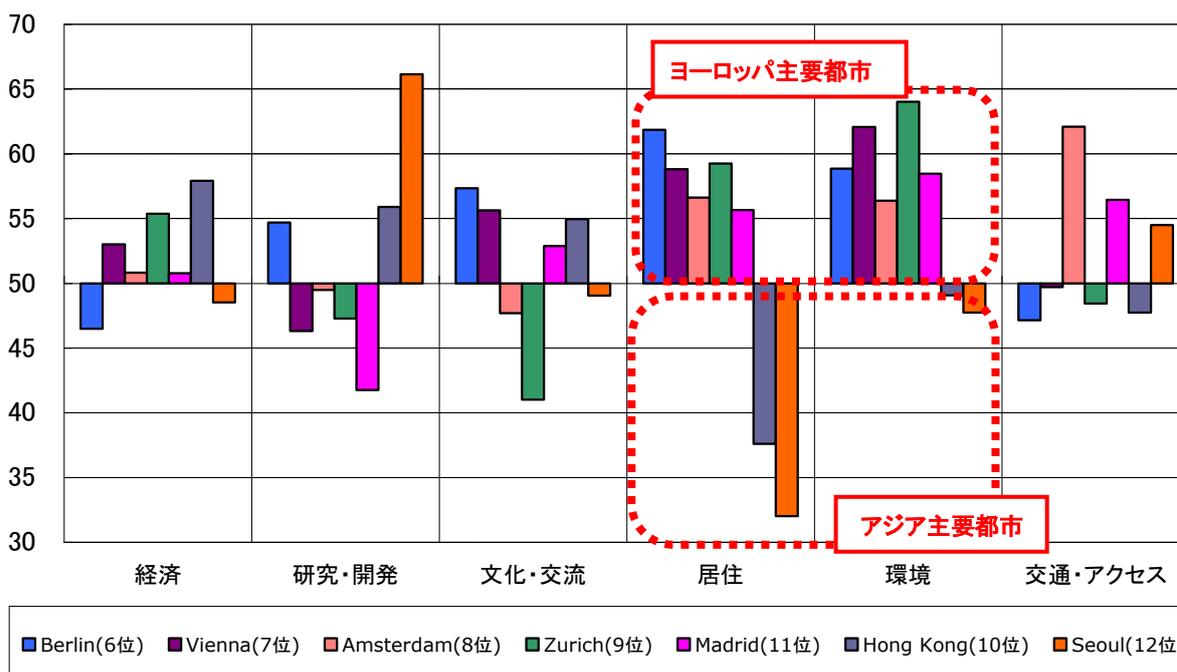
総合ランキングの6位～12位にランクされている、ヨーロッパの5都市、ベルリン、ウィーン、アムステルダム、チューリッヒ、マドリッドについても、偏差値分析を行った。

この5つの都市は「居住」、「環境」分野で非常に優位性をもっており、5都市すべての偏差値が55以上であるが、この結果は、同様の上位圏にランクされている香港、ソウルとはまったく異なる結果となっている。

香港とソウルの場合、ヨーロッパの都市が高く評価されている「居住」、「環境」分野でマイナスに評価されているが、「経済」、「研究・開発」分野ではヨーロッパの都市より極めて高い評価を得ている。一方で、総合ランク5位のシンガポールは、前述のとおり、6分野すべての偏差値が平均を上回る優位な都市であるが、偏差値が60を超えるほど圧倒的な評価を得ている分野はない。

一方で、ヨーロッパの5つの都市はそれぞれ弱い分野が異なり、ベルリンは「経済」、ウィーンとマドリッドは「研究・開発」、チューリッヒとアムステルダムは「文化・交流」分野が弱いことがわかる。

図2-6 ヨーロッパ主要都市の分野別の総合スコアの偏差値の分析



2-8. 東京の強み・弱みの分析

トップ3都市と比べ東京の強みは、経済分野では世界のトップ企業が集積していること、研究・開発分野では研究者数の多さや研究開発費が豊富であることである。一方、東京の弱みは、都心から国際空港までのアクセスが悪いこと、高い法人税率などであり、これらの点で大きく劣っていることが、トップ3入りできない原因であると言える。

(1) 分野別

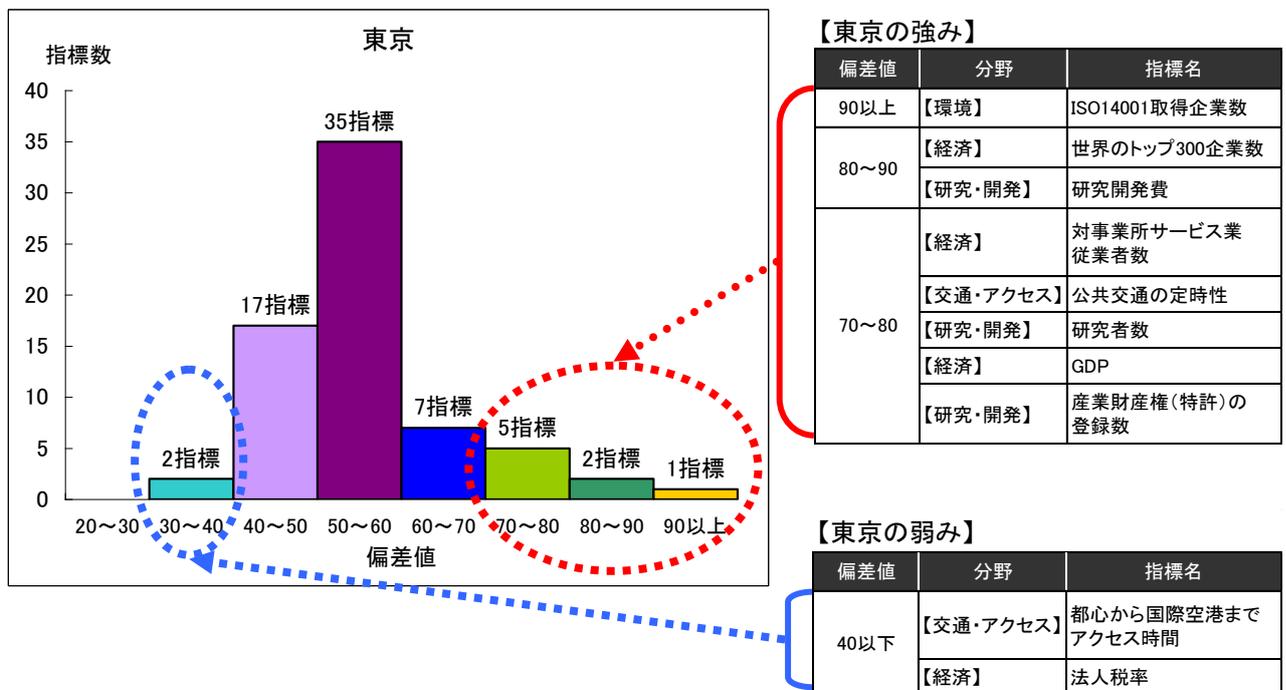
東京の総合ランキングは、今年も4位で昨年と変わらないが、3位のパリとの総合スコアの差は22点から12点に縮小した。

東京は35都市のなかで「経済」、「環境」、「研究開発」の分野での評価が非常に高く、個別指標の偏差値でもISO14001取得企業数、研究開発費、世界トップ300企業数などが他都市と比べ圧倒的に優位である。

しかし、「居住」、「交通・アクセス」の2分野が比較的弱く、特に「都心から国際空港までのアクセス時間」が著しく低く評価されている。

さらに、海外企業の日本への進出に高いバリアーといわれる「法人税率」は、35都市のなかでも最低の評価となっている。

図2-7 指標別の偏差値分析による東京の強みと弱みの分析



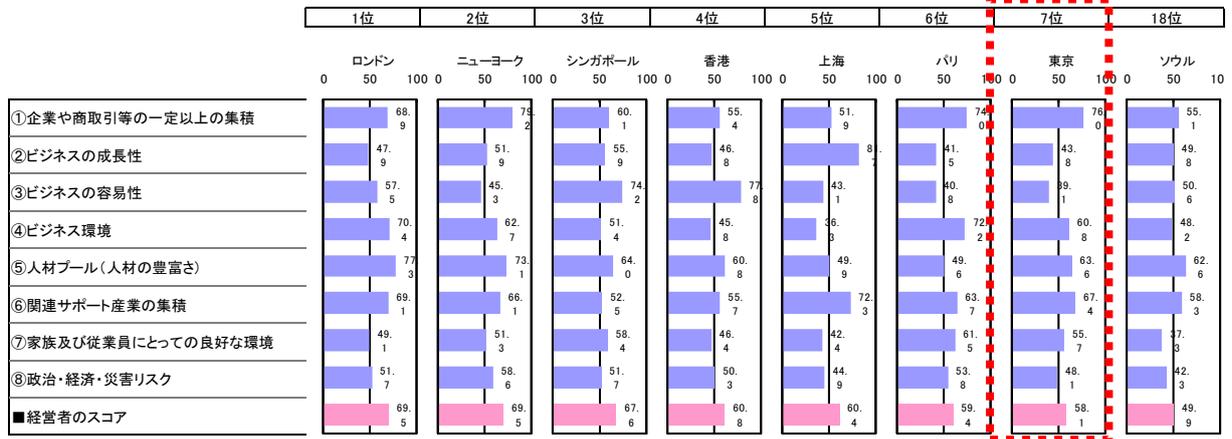
「経営者」に魅力的な都市とするための東京の課題は、規制や税制などの面でビジネスをとりまく環境の改善である。また「観光客」に魅力的な都市とするための東京の課題は、魅力的な観光資源を充実させること等、観光をとりまく環境の改善である。

(2) アクター別

アクター別ランキングにおいて東京は、「経営者」ならびに「観光客」の観点から見た評価がともに7位と、世界のトップ都市と比較すると低く、弱点のひとつとなっている。

まず「経営者」で見ると東京は、「①企業や商取引等の一定以上の集積」や「⑥関連サポート産業の集積」といったビジネスに直結する要素については高い評価を得ているものの、「②ビジネスの成長性」、規制や税率などの「③ビジネスの容易性」、「⑤人材プール（人材の豊富さ）」等、ビジネス展開上の周辺環境に関する要素ではトップ都市と比較して必ずしも高い評価を得ていない。

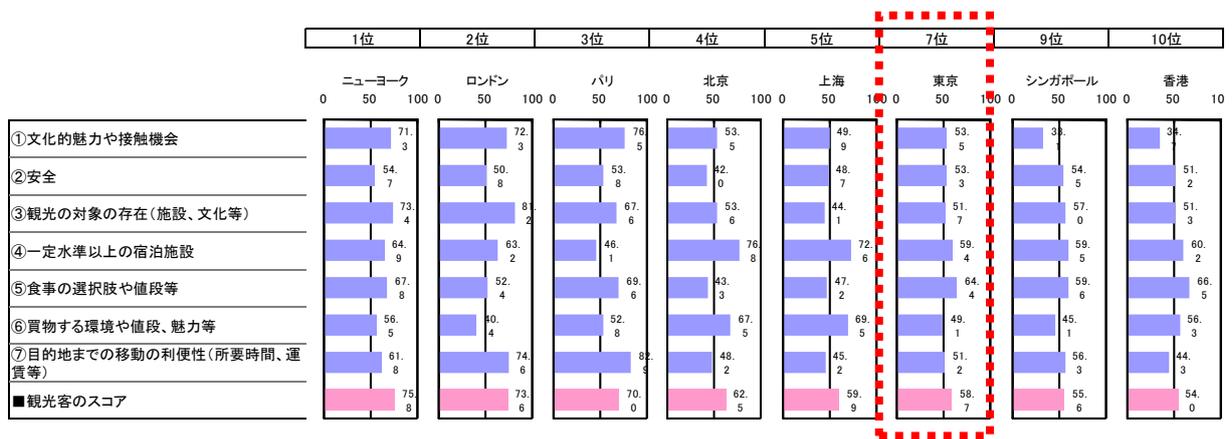
図2-8 経営者が重視する要素別に見た主要都市の評価（偏差値）



一方「観光客」で見ると、トップ都市と比較した場合、とりわけ「①文化的魅力や接触機会」「③観光の対象の存在（施設、文化等）」のスコアが低いことがあげられる。

これは、東京が世界のトップ都市と比較して、安全面では高い評価を得ている一方、外国人を受け入れる魅力的な観光資源に欠けていることを表している。

図2-9 観光客が重視する要素別に見た主要都市の評価（偏差値）



2-9. 東京の弱みを克服するためのシナリオ

東京の「弱み」を克服し、東京が世界の No1 都市となるためのシナリオを明らかにする。
結果として、シナリオ2（国際交通インフラが改善され、さらに経営者からみて重要な要素の指標が克服されるシナリオ）を実現することで、東京の総合ランキングが1位となることがわかった。

GPCI の真の目標は単に都市をランキングすることにとどまることなく、都市戦略のツールとして世界のさまざまな都市で活用することにある。都市毎にどの指標をどの程度改善すればランキングが上昇するのかという「シナリオ」に基づくランキングのシミュレーションを行うことにより、その都市において必要な都市政策を明らかにすることが可能となる。

以下に、東京の弱みを克服し東京が No1 都市となるための「シナリオ」を示す。

【シナリオ1】（国際交通インフラが改善されるシナリオ）

昨年に引き続き、GPCI-2009でも低く評価された東京の「都心からの国際空港までのアクセス時間」が、羽田空港の国際化により大幅に短縮され、羽田空港がシンガポール並みのアジアのハブ空港になった場合の東京のランキングを以下の条件でシミュレーションした。

- ・ 都心からの国際空港までのアクセス時間:シンガポールと同程度の30分程度に短縮が実現
- ・ 国際線直行便就航都市数:シンガポールと同程度の都市数を実現
- ・ 国際線旅客数:シンガポールと同程度の人数を実現
- ・ 海外からの訪問者数:シンガポールと同程度の人数を実現

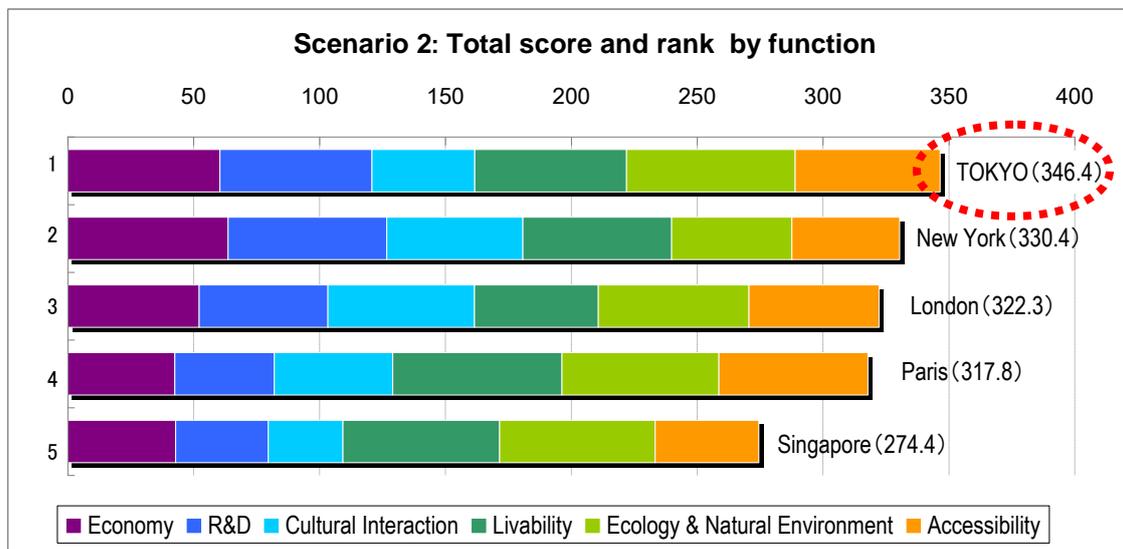
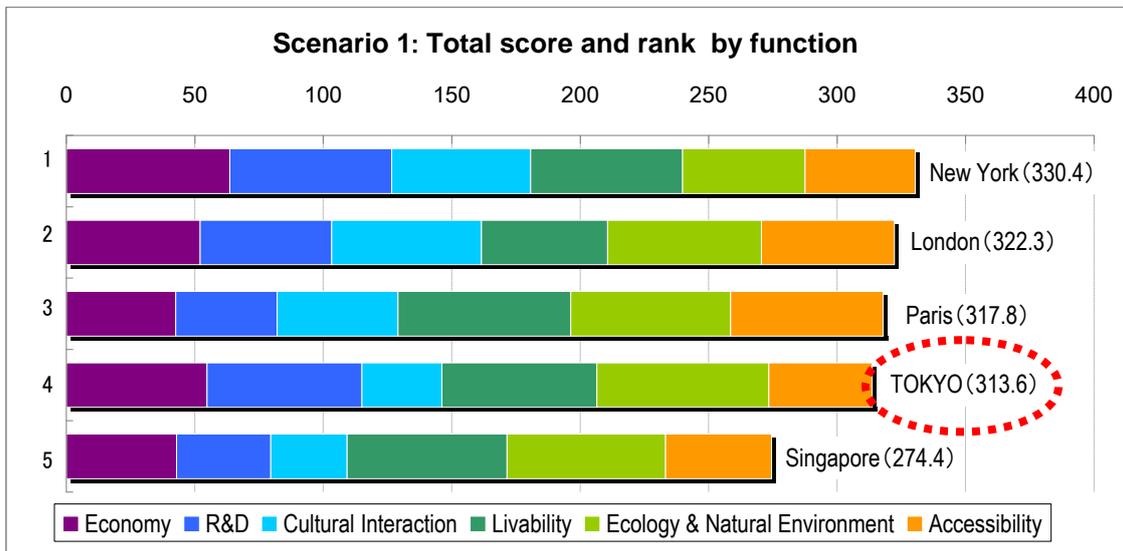
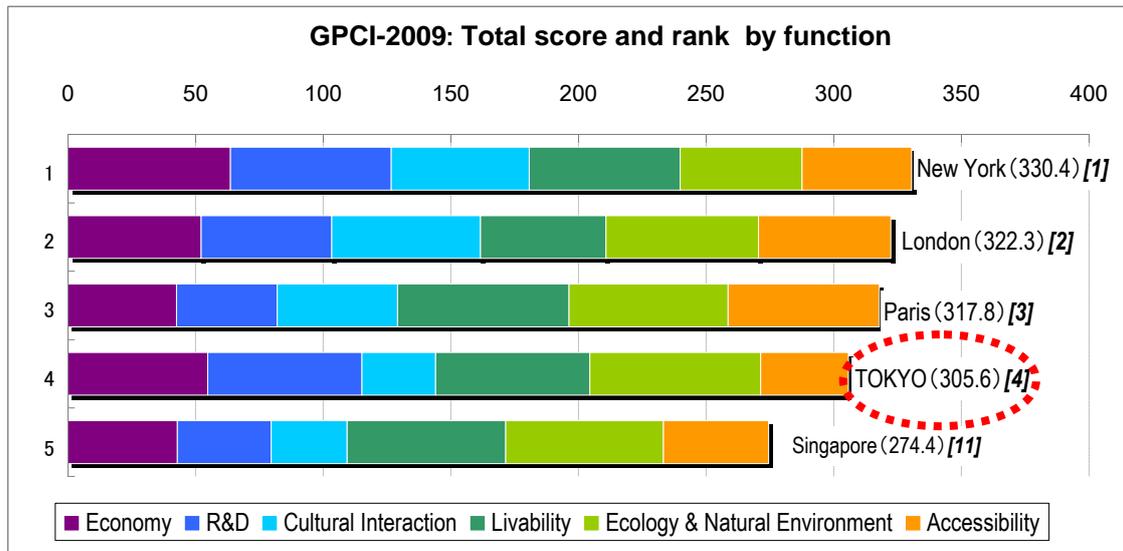
【シナリオ2】（国際交通インフラ及び経営者からみて重要な要素の指標が改善されるシナリオ）

国際交通インフラ改善と共に、「経営者」の立場で重要な「ビジネスの容易性」、「ビジネス環境」、「人材プール」など経済環境に関連する指標（「経済」、「文化・交流」、「交通・アクセス」分野）が、「経営者」からの評価が最も高い「ロンドン」並みに改善された場合の東京のランキングを以下の条件でシミュレーションした。（都心から国際空港までのアクセス時間は現実性を勘案し、シンガポール並みの30分程度に設定）

- ・ 経済自由度:ロンドンと同程度の数値を実現
- ・ 法人税率:ロンドンと同程度の税率を実現
- ・ 外国人数:ロンドンと同程度の人数を実現
- ・ 留学生数:ロンドンと同程度の人数を実現
- ・ 海外からの訪問者数:ロンドンと同程度の人数を実現
- ・ 都心からの国際空港までのアクセス時間:シンガポールと同程度の30分程度に短縮が実現
- ・ 国際線直行便就航都市数:ロンドンと同程度の都市数を実現
- ・ 国際線旅客数:ロンドンと同程度の旅客数を実現

【シナリオ1】では東京とパリの差は縮まるものの順位の変動はない。【シナリオ2】を実現すると、東京は4位から1位となる。

図 2 - 1 0 GPCI-2009の結果及びシナリオ1、シナリオ2の上位5都市のランキング比較



2-10. Global Circuit に関する分析—GPCI からのフィードバック

都市の総合力を評価する上で重要な点は、単に都市ごとの指標の優劣だけでなく、これら大都市が相互にどのような関係—依存、競合、補完、を持っているかである。そのため、都市間相互の関係を表す以下のネットワークについての分析を行い、都市別の指標を積み上げただけでは分からない「グローバル・サーキット」を顕在化させるための分析をランキングと並行して行っている。

(1) 都市間航空旅客流動量

ロンドンには欧州地域のハブであると同時に、アジア・北米の主要都市との繋がりも強く（航空旅客流動からみたグローバル拠点）、北米ではN.Y.がハブであり、かつロンドンとの繋がりも強い。アジアでは東京、香港、シンガポールがハブであるが、シンガポール・香港がロンドンと繋がり強い一方で東京はロサンゼルスとの繋がり強いことがわかる。

(2) グローバル企業の世界各都市での本社・支社のネットワーク

- ① 金融業を除くグローバル企業の世界各都市での本社・支社の立地状況はパリがヨーロッパの拠点、ニューヨークがアメリカ大陸の拠点、そして東京とソウルがアジアの拠点であることがわかる。さらに、パリとニューヨークがそれぞれともに、東京、ソウル、マドリッドと強いネットワークを持つことがわかる。
- ② 金融業では依然として東京、ニューヨーク、ロンドンが強いネットワークを示しており、世界3大金融センターであることを表している。また、パリはヨーロッパ及びアジアの諸都市とのリンクがロンドンを上回って非常に多く、ロンドンの陰に隠された金融センターであることを示している。

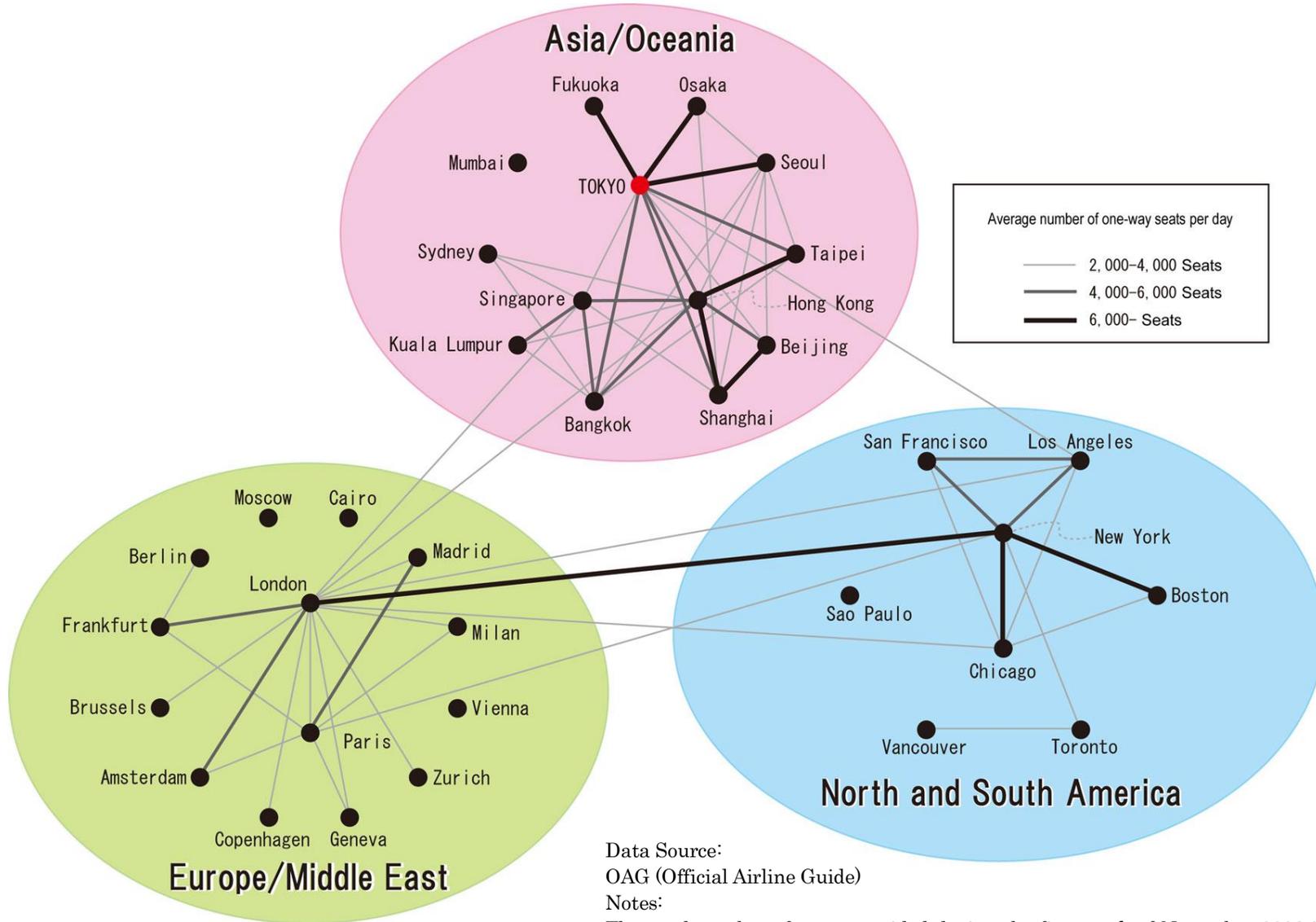
(1) 都市間航空旅客流動量

都市間航空流動を元に、対象35都市の繋がり状況を整理している。この指標は、都市間のヒトの流れを示す指標となる。調査にあたっては、2008年11月第一週の都市間提供座席数をOAG時刻表から集計し（直行便、旅客便のみを対象と）、都市間ごとに提供座席数を合計し、この座席数を偏差値でみて60以上のものをグローバル・サーキットとして視覚化している。

集計結果は以下のとおりであるが、航空流動量からみると、東京は世界に向けたアジアの拠点とは言い難い状況でとなっていることがわかる。

- ① ロンドンは欧州地域のハブであると同時に、アジア・北米の主要都市との繋がりも強い航空流動からみたグローバル拠点である
- ② 北米ではN.Y.がハブであり、グローバル拠点のロンドンとの繋がりも強い
- ③ アジアでは、シンガポール・香港・東京がハブである。ただし、シンガポール・香港がロンドンと繋がり強い一方で東京はアジア外との繋がりはさほど強くはないがロサンゼルスとのつながり強い。

図 2 - 1 1 35 都市の都市間航空旅客流動量



Data Source:

OAG (Official Airline Guide)

Notes:

The total number of seats provided during the first week of November 2008 is used to create this diagram.

This figure shows only large flows between 2 cities.

Airline flows are limited to direct flights.

(2) グローバル企業の世界各都市での本社・支社のネットワーク

グローバル企業の世界各都市間の本社・支社のネットワークについて、「世界の非金融業の主要企業の Worldwide Corporation Network」、「世界の金融業の主要企業の Worldwide Corporation Network」の2つに分けて分析している。

調査は「非金融業の世界のトップ 100 企業」¹、「金融業の上位 50 企業」²をまず選定し、これらのうち 35 都市に本社のある企業を調査対象としている。

集計方法は、企業の本社がある都市（都市A）に対してその企業の支社がある都市（都市B）があった場合、都市A-都市Bをひとつのネットワークとしてカウントし、非金融業、金融業ごとに調査対象企業のネットワークの数を対象都市別に集計を行い、さらにこのネットワークの強さを視覚化することによって、都市間のグローバル・サーキットを表現している。

① グローバル企業の 35 都市間での本社・支社のネットワーク（非金融業）

- ・ ヨーロッパでは「パリ」、北南米では「ニューヨーク」、アジアでは「東京」と「ソウル」がネットワークの中心である。
- ・ パリ、ニューヨークそれぞれともに東京、ソウル、マドリッドとのつながりが強い。

② グローバル企業の 35 都市間での本社・支社のネットワーク（金融業）

- ・ 欧州では「ロンドン」、北南米では「ニューヨーク」、アジアでは「東京」がネットワークの中心であり、かつこの 3 つの都市のつながりが非常に強く世界 3 大金融センターであることを示している。
- ・ パリとミラノのつながりも非常に強い。
- ・ アジアでは東京、香港、北京のつながりが強く、トライアングルを構成しつつ、さらに東京、シンガポールとパリにてさらに大きなトライアングルを構成している。
- ・ パリはヨーロッパ及びアジアの諸都市とのリンクがロンドンを上回って非常に多く、ロンドンの陰に隠された金融センターであることを示している。

¹ Newsweek 2008 年 10 月 8 日版「世界で最も稼いだ 300 社（営業利益基準）」の中から、石油・ガス、電力、金属・鋳業、通信、金融の 5 つの業種に該当する企業を除外した上位 100 企業である。

² Fortune 2009 の「Global 500」の企業リストから、「Banks」と「Insurance」業種の上位 50 企業を集計対象にする。

図 2-12 グローバル企業の 35 都市間での本社・支社のネットワーク（非金融業）

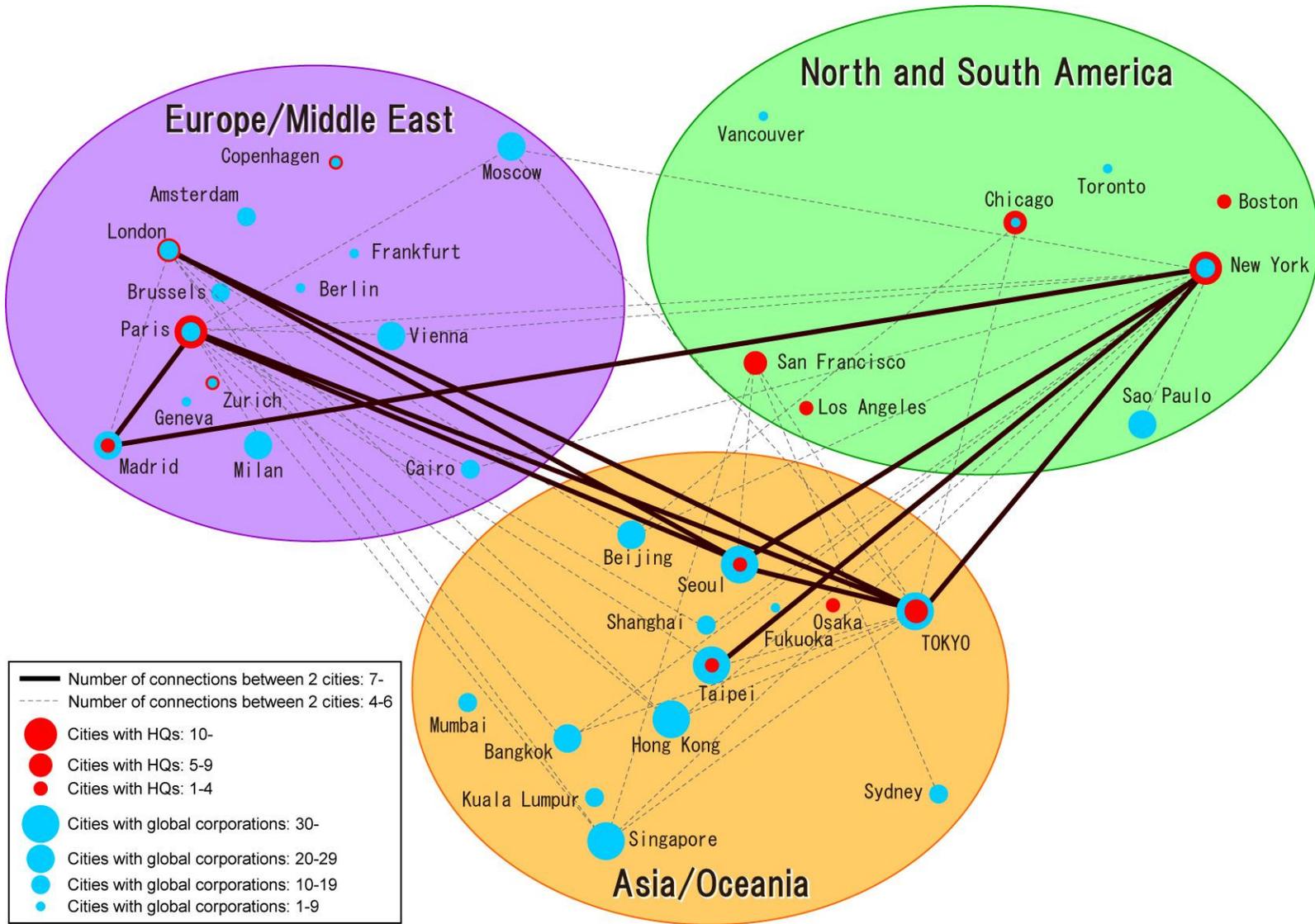
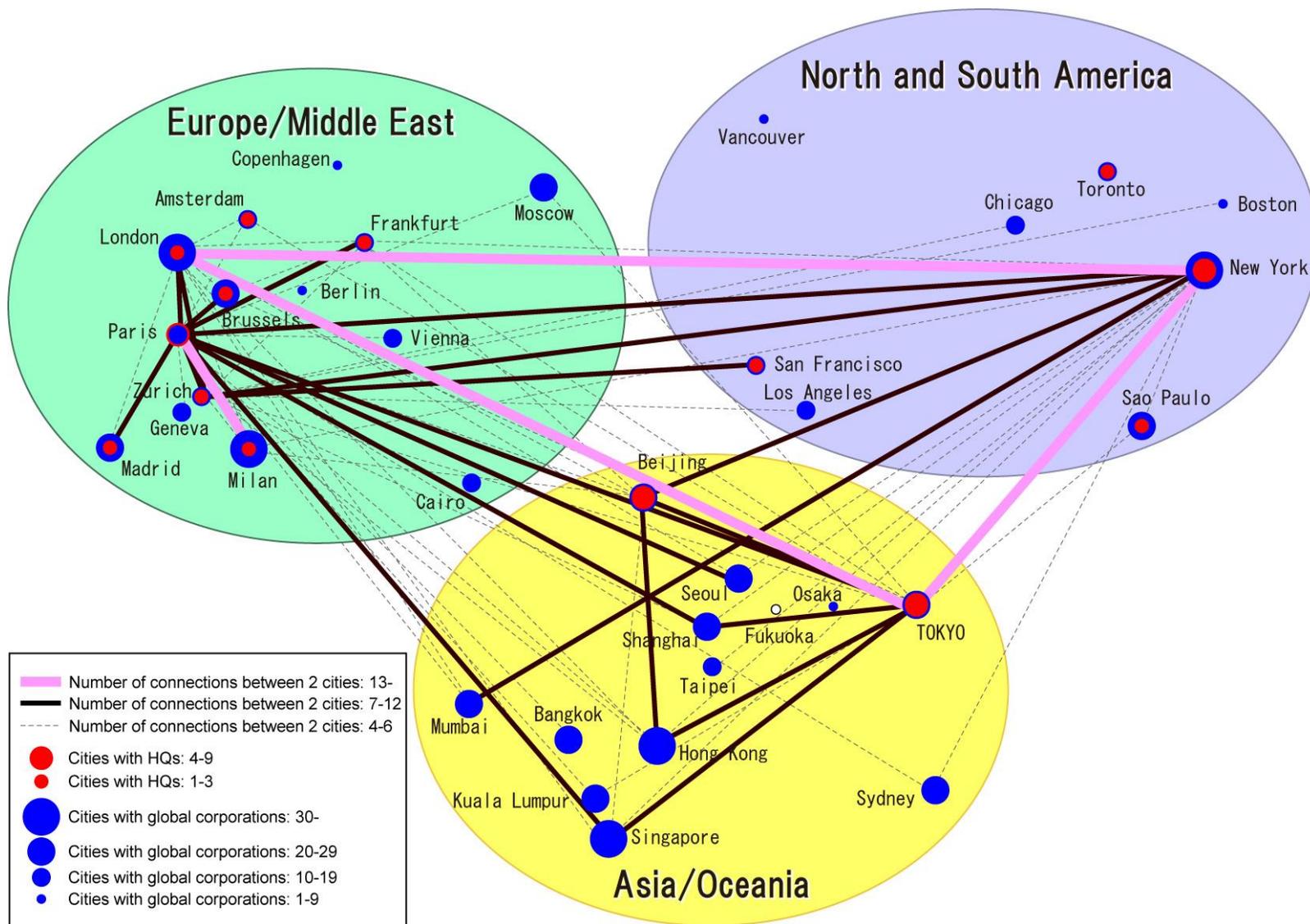


図 2-13 グローバル企業の 35 都市間での本社・支社のネットワーク（金融業）



最高顧問

ピーター・ホール卿

ロンドン大学バートレット校教授



<略歴>

1932年ロンドン生まれ。ケンブリッジ大学大学院で修士・博士課程修了。英国レディング大学、カリフォルニア大学バークレー校教授を歴任。ブリティッシュ・アカデミーフェロー、ヨーロッパアカデミー会員。1998年都市計画協会への貢献によりナイトの称号を授与された。世界都市を研究する世界的ネットワークである Globalization and World Cities Research Network の名誉創設者の一人。ロンドン、シンガポール、アデレード大都市圏（オーストラリア）、ライプツヒ（ドイツ）などの計画作成にもかかわる。

21世紀都市化世界委員会招集者

イギリス政府 戦略計画のスペシャルアドバイザー

<主な著書>

London 2000

The World Cities

Cities of Tomorrow: An Intellectual History of Urban Planning and Design in the Twentieth Century

Cities in Civilization: Culture, Technology, and Urban Order

第三者評価員（ピアレビューアー）

アレン・J・スコット

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 地理学部および公共政策学部 教授



<略歴>

ノースウェスタン大学（Northwestern University）大学院修士・博士課程修了、地理学博士。1987年、アメリカ地理学会賞受賞。1999年、ブリティッシュ・アカデミー客員フェロー

<主な著書>

Social Economy of the Metropolis: Cognitive-Cultural Capitalism and the Global Resurgence of Cities

The Cultural Economy of Cities

Regions and the World Economy

Metropolis: From the Division of Labor to Urban Form

ピーター・ネイカンフ

フリー大学(VU University Amsterdam)教授/ティンベルゲン研究所フェロー



<略歴>

エラスマス大学(Erasmus University, Rotterdam) 修士・博士課程修了 (Tinbergen Institute Fellow, Amsterdam)

オランダ政府、欧州委員会、世界銀行、OECD 等の各アドバイザーを務める

<主な著書>

Regional Cohesion and Competition in the Age of Globalization

Innovation, Space and Economic Development Advances in Modern Tourism Research

委員会メンバー

竹中平蔵

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 所長・教授／森記念財団都市戦略研究所長



<略歴>

1951年和歌山県生まれ。一橋大学経済学部卒業。日本開発銀行勤務、ハーバード大学客員准教授、慶應義塾大学総合政策学部教授等を経て、2001年経済財政政策担当大臣を皮切りに、金融担当大臣、郵政民営化担当大臣兼務、総務大臣を歴任。06年より現職。経済学博士。

<主な著書>

『構造改革の真実 竹中平蔵大臣日誌』等多数。

リチャード・ベンダー

カリフォルニア大学バークレー校名誉学部長／東京大学客員教授



<略歴>

マサチューセッツ工科大学卒。ハーバード大学大学院修士課程修了。建築・都市計画分野の重鎮として、米国、欧州、アジアで活躍。

日本では民間都市開発や自治体の都市計画アドバイザーを務める。

2004年 日本都市計画学会国際交流賞受賞。

<主な著書>

A Crack in the Rearview Mirror : Views of the Industrialization of Building. The Future of Housing, in "A Global Strategy for Housing"

サスキア・サッセン

シカゴ大学教授／コロンビア大学教授／ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス客員教授



<略歴>

ブエノスアイレス国立大学、イタリア・ローマ大学卒業。米国インディアナ州ノートルダム大学で社会学修士、同博士、経済学博士号を取得。

ハーバード大学、ニューヨーク市立大学、シカゴ大学、ロンドン大学を経て、現在コロンビア大学社会学教授、コロンビア大学「世界考想」委員会主宰

Globalization and World Cities Research Network の名誉創設者の一人

MasterCard Centers of Commerce Index のナレッジパネルの一人

<主な著書>

Cities in a World Economy、The global city : New York, London, Tokyo

Globalization and its Discontents. Essays on the New Mobility of People and Money

市川宏雄

明治大学専門職大学院長／公共政策大学院ガバナンス研究科長・教授／森記念財団理事



<略歴>

1947年東京都生まれ。早稲田大学理工学部建築学科、同大学院を経て、ウォータールー大学大学院博士課程修了。Ph.D. 長く東京研究並びに世界都市論を手掛け、東京都の初めての都市白書 91 作成のアドバイザーとして活躍して以来、「都市づくりビジョン」のコアメンバー、「東京自治制度懇談会」等の一連の委員を務め、広く国内外で活躍。

<主な著書>

『グローバルフロント東京』『文化としての都市空間』『図解東京都を読む事典』

『首都圏自治体の攻防』『成熟都市東京のゆくえ』『東京はこう変わる』

等多数

主要な既存ランキングとの比較

機関	森記念財団	MasterCard (マスターカード)
名称	Global Power City Index	Worldwide Centers of Commerce Index (ビジネスセンター指標)
分野	総合系	ビジネス系
対象国・都市 (発表年)	世界 35都市 (2009年)	世界 75都市 (2008年)
評価軸	6分野 「経済」 「研究・開発」 「文化・交流」 「居住」 「環境」 「交通・アクセス」 5アクター 「経営者」 「研究者」 「アーティスト」 「観光客」 「生活者」	1. 法律・政治上の枠組み(10%) 2. 経済安定性(10%) 3. ビジネスのしやすさ(20%) 4. 金融(22%) 5. ビジネスセンター度(12%) 6. 知的財産・情報(16%) 7. 住みやすさ(10%)
評価手法	・評価軸ごとにランクづけ、分野別に総合ランクを算出 ・6分野、5アクターを複眼的に評価	・上記6指標を上記ウエイトづけし算出 ・評価軸及び評価指標は有識者が選定 ・7種の評価軸、それを構成する43の指標、74の準指標によって評価
指標数	69指標	74指標
東京の順位	分野別総合4位 ※各分野別スコアを合計した「総合スコア」の順位	3位

機関	City of London	Globalization and World Cities (Loughborough University)
名称	Global Financial Centres Index 6 (国際金融センター指標)	Leading World Cities
分野	金融系	総合系
対象国・都市 (発表年)	世界 75都市 (2009年9月)	世界52都市 (2004年)
評価軸	A. 人的要素 B. ビジネス環境 C. マーケットアクセス D. インフラ E. 一般的な競争力	A. 経済的グローバリゼーション B. 文化的グローバリゼーション C. 政治的グローバリゼーション D. 社会的グローバリゼーション
評価手法	・統計データに加えアンケートを実施 ・5種の評価軸、それを構成する64の指標によって評価	4分野について、(1)規模性、(2)ネットワーク性から評価
指標数	64指標	16指標
東京の順位	7位	特定分野に貢献しているグローバルシティ

	都市
機関	プライスウォーターハウスクーパース(PwC)
名称	Cities of Opportunity: Business-readiness Indicators for the 21st Century
分野	ビジネス系
対象国・都市	世界 20都市 (2008年)
評価対象	ビジネス環境

	国
	世界経済フォーラム(WEF)
	世界競争力調査(World Competitiveness)
	経済系
	世界 133カ国・地域 (2009-2010年)
	国の生産性

機関	エコノミスト(EIU)
名称	都市の住みやすさランキング(Livability Ranking)
分野	居住系
対象国・都市	世界 140都市 (2009年)
評価対象	住みやすさ

	国際経営開発研究所(IMD)
	世界競争力指標(Gobal Competitiveness Index)
	経済系
	世界 57カ国・地域 (2009年)
	企業の競争力環境

機関	ミュンヘン再保険会社
名称	災害危険指標(Natural hazard risk index)
分野	災害系
対象国・都市	世界 50都市 (2005年)
評価対象	リスク

	日本経済研究センター
	潜在競争力ランキング
	経済系
	世界 50カ国 (2008年)
	今後10年間にどれだけ1人当たりGDPを増加させるか

機関	マーサー社
名称	生計費調査
分野	生活系
対象国・都市	世界 143都市 (2009年)
評価対象	生計費

	世界銀行
	ビジネスしやすさ指標(Ease of Doing Business)
	ビジネス系
	世界 183カ国・地域 (2009年)
	ビジネスの規制環境

機関	マーサー社
名称	生活の質調査
分野	生活系
対象国・都市	世界 215都市 (2009年)
評価対象	生活の質調査

	エコノミスト(EIU)
	IT産業競争力指標 (IT industry competitiveness index)
	IT系
	世界 66カ国 (2009年)
	IT企業の競争力環境

機関	UBS
名称	物価・所得調査
分野	生活系
対象国・都市	世界 73都市 (2009年)
評価対象	物価・所得調査

	イェール大学
	環境パフォーマンス指標(EPI)
	環境系
	世界 149カ国 (2008年)
	環境パフォーマンス

機関	中国社会科学院
名称	Global Urban Competitiveness Report (2007-2008)
分野	ビジネス系
対象国・都市	世界 500都市 (2008年)
評価対象	Business worth

2009年10月22日発行

編集・発行

財団法人 森記念財団

<http://www.mori-m-foundation.or.jp>

東京都港区六本木 6-10-1

六本木ヒルズ森タワー私書箱5号

電話 03(6406)6800(代表) 郵便番号 106-6110

Email: morimfoundation@mori.miinet.jp

Copyright © 2009 The Mori Memorial Foundation All Rights Reserved.

無断転載を禁ず

Global Power City Index 2009 作業担当

三輪 恭之 久保 隆行

森記念財団 都市戦略研究所

峰尾 学 中尾 成政 魚路 学 金信娥

株式会社三菱総合研究所

Global Power City Index 2009

1. New York

2. London

3. Paris

4. Tokyo

5. Singapore

6. Berlin

7. Vienna

8. Amsterdam

9. Zurich

10. Hong Kong

11. Madrid

12. Seoul

13. Los Angeles

14. Sydney

15. Toronto

16. Frankfurt

17. Copenhagen

18. Brussels

19. Geneva

20. Boston

21. Shanghai

22. Chicago

23. Vancouver

24. San Francisco

25. Osaka

26. Beijing

27. Kuala Lumpur

28. Milan

29. Bangkok

30. Fukuoka

31. Taipei

32. Moscow

33. Sao Paulo

34. Mumbai

35. Cairo